

6. 聖なるものを犬に与えてはいけません。また豚の前に、真珠を投げてはなりません。それを足で踏みにじり、向き直つてあなたがたを引き裂くでしょうから。

説教

これはイエスさまの山上の説教の一節です。「豚に真珠」という言葉は、これがもとになっています。

ここで「聖なるもの」あるいは「真珠」と呼ばれているものは、要するに、これまでイエスさまが教えてきた「神の国」の教えのことで、別の所で、イエスさまは「天の御国」を「良い真珠」にたとえました（マタイ 13:45-46）。「すばらしい値打ちの真珠」一粒を見つけた商人は、自分の全財産を売り払ってそれを買ってしまいます。天国に行くことは世の宝にはるかにまさる財産なのです。そしてイエスさまの教えは、天国に行く秘訣を教え、さらには、この地上の生活で神さまに喜ばれ、神さまに祝福される人生の秘訣を私たちに教えてくれます。ですからイエスさまの教えは、この地上には属さない、全く別次元の「神の国の教え」ということで、「聖なるもの」と呼ばれます。そして、この世で何よりも価値があるものということで「真珠」にたとえられます。私たちが天国へと入れてくれるイエスさまの教えは、世のあらゆる宝にまさる、何よりも価値のあるものなのです。

イエスさまは言われます。「聖なるものを犬に与えてはいけません。」「豚の前に真珠を投げてはなりません。」

「犬」といえば、何か飼い犬のように人懐っこくて可愛いイメージがありますが、ここでは飼い犬というよりも野犬のイメージです。空腹な野生の犬は、餓鬼のように、夜になると生ゴミや死骸を求めて野山や市街地をうろつきまわり、戦場では戦死者の死体を食いあさりました。そして、雄雌の区別もつかず誰彼かまわず交尾をしたがるせいか、「男色(男の同性愛)」は「犬の行為」と呼ばれました。これがパレスチナ地方に於ける「犬」のイメージです。それは、貪欲で、どう猛で、危険で、下品で、愚かな、汚れた野獣です。当然、「犬」には真に尊い「聖なるもの」の価値など理解できるはずがありません。一方、「豚」は律法で「汚れた動物」とされていたため、ユダヤ人はこれを食べませんでした（申命記 14:8）。これら「犬」も「豚」も文字通りの意味でないことは言うまでもありません。「神の国」を理解しない人のことです。つまりイエスさまは、「神の国」を理解しない人のことを、人間ではなく、「犬」「豚」と呼ばれたのでした。それは真に尊い「聖なるもの」「真珠」の価値を理解しない野獣という意味です。欲の赴くまま、貪欲に、しかも下品で愚かに、ゴミでも死骸でも見境なく、汚れた物を食いあさる、浅ましい、汚れたケダモノです。神の国のことを理解しない者は、人としてではなく、汚れた野獣、犬、豚として扱え、奴らは犬畜生であり、豚野郎だというわけです。そしてそうしないと、彼らは「それを足で踏みにじり、向き直つてあなたがたを引き裂くでしょうから」と言うのでした。

実はこの話は、その前の話の延長として語られていることです。1節では人をさばいてはならないことが教えられました。2節からは、人の目から「ちり」を取り除いてあげようとするれば、まず自分の目にある「梁(太い角材)」を取り除くよう教えられます。そうして6節で「豚に真珠は禁物」と教えられるのです。つまり神の国の真理を人に教える時には、まずは人をさばかず、次には自分の目にある「梁」をできる限り取り除けながら教えるのですが、そこまでしても相手が理解しない、あるいは理解しようとしなない場合には、もうそれ以上教える必要はないとイエスさまは教えておられることとなります。なぜなら、その相手はもはや人間ではなく「犬」「豚」に過ぎないからです。地上のことにしか関心が無く、霊的なこと、天上のことを理解しません。汚れたゴミと死骸をひたすらガツガツ食いあさり、真に価値ある「聖なるもの」、「真珠」を理解しません。

このため、そのような「犬」「豚」にイエスさまの教えを教えるとどうなるでしょうか。イエスさまは言われます。「それを足で踏みにじり、向き直つてあなたがたを引き裂くでしょう」。まず、価値がわからないので「それを足で踏みにじり」まず。そしてさらには、「うるせえ！」とばかりに、「向き直つてあなたがたを引き裂く」のです。つまり牙をむいて襲いかかってくるというのでした。これはその通りで、「神の国」を人々に教えたためにイエスさまは迫害を受けて十字架で殺されま

した。同様に、弟子たちも同胞のユダヤ人たちに迫害されます。それでイエスさまは、別の箇所、神の国の福音を伝えても人々がそれを受け入れない場合には、（最後の審判の日には塵一つもこの人のさばきに責任が無いとの表明として）足のちりを払い落として他の町へ行って宣教するよう教えました（マタイ 10:14）。そしてご自身も、ピラトの前では証ししても、ヘロデ王の前では無言を貫かれます（ルカ 23:3,9）。パウロもコリントでユダヤ人たちから迫害を受けた時、自分の着物を振り払ってこう宣言しました。「あなたがたの血はあなたがたの頭上にふりかけられ。私には責任がない。今から私は異邦人の方に行く。」（使徒 18:6）このように、聞く耳の無い者に対しては、イエスさまも使徒たちも、それ以上関わることをやめたことがわかります。

やるだけ努力し、言うべきことを言えば、あとは相手の責任であって、それ以上関わって時間と労力を無駄に費やしてはならないのです。なぜなら、聞く耳を持たぬその人は、少なくともイエスさまの目には、もはや人間ではなく、「犬」「豚」に過ぎないからです。「犬」「豚」ですから、どんなに心を尽くして熱心に説明しても、霊的なことを理解できようはずがありません。彼らの関心はただ地上のことだけです。日夜、自分の欲の追求に明け暮れています。汚れたゴミだろうが死骸だろうが、食べられる物は何でも見境なくガツガツと食いあさります。どんなに神が呼びかけても聞こえません。否、聞こえていても、食べ物をあさるのに忙しくて、振り向く暇が無いのです。死ぬまで、ただただ自分の欲を追求し、最後はソドム・ゴモラのように永遠に滅び失せてしまいます。

イエスさまのことばは、恐ろしい事実を私たちに伝えていています。それは、すなわち、神のことばを聞く耳の無い者は、もはや「人間」の姿を失って、「犬」あるいは「豚」に成り下がっている、という事実です。「犬」「豚」と化した人間は、神のことばを蔑み、嘲り、「足で踏みにじり」ます。そして、あからさまに神に敵対し、神を憎悪して、神のことばを抹殺せんと挑みかかるとのことです。これが人間の罪であり墮落です。そして、人を惑わし、虜にし、滅ぼす、悪魔の働きです。一言で言えば、悪魔は人間を「犬」にし「豚」にするのです。「聖なるもの」などクソ食らえ、真に尊い聖なる「真珠」には全く無関心で、地上の汚れた生ゴミと死骸ばかりをひたすら食欲にガツガツと食いあさることで一生を終わらせます。そうして永遠の滅びへの道連れにするのです。

神は人をご自身のかたちで造られました。犬豚ではなく、人は「神のかたち」なのです。神に似た者として造られました。神のことばを侮り、神に敵対するのではなく、神のことばを尊んで、神のことばに聞き従う、そこに「神のかたち」を回復した人間本来の姿があるのです。

私たちは、神のことばを足蹴にする「犬」や「豚」にならないよう、お互いよく注意しなければなりません。私たちは「犬」や「豚」ではありません。人間です。人間なら、人間らしく、神を畏れ尊んで、神のことばに聞き従いましょう。そして、主にある兄弟姉妹はよく人を見て「神の国」の福音を伝えましょう。福音宣教の戦いは、言うべきことを言う、伝えるべきことを伝える、という戦いです。何でもいから、とにかく手段を選ばず、何が何でも神を信じさせるといふことは必要ないし、それはしてはなりません。相手にも誰も踏み込むことのできない絶対的な信教の自由があるし、私たち自身にとっても、必要以上にその人と関わるのは時間と労力の無駄です。そこまでやる必要は無いし、また、してはなりません。勿論パウロが言ったように、ギリシャ人にはギリシャ人のように、ユダヤ人にはユダヤ人のように、宣教のためにあらゆる手段を尽くして試みるという努力は必要だろうと思います。でも、なすべきことをなし、言うべきことを言えば、あとは相手の責任です。私たちの戦いは、伝えるべきことを伝える、という戦いです。それができれば勝利で、そうでなければ敗北です。言って相手が聞く耳を全然持たないならば、それは私たちのせいというより、相手が人間ではなく「犬」「豚」だからです。

ですから、うまくいかないからといって、無意味に失望したり、空しい期待をかけてはなりません。その人がイエスさまを受け入れないのは、自分の努力が足りないからだとか、愛が足りないからだ、などと安易に勘違いしてはなりません。それはそうかも知れませんが、そんなことを言えば、確かに、どんなに努力しても足りません。私たちにはそもそも愛が無いのです。

究極、人には、人を教えたり導いたり、「目のちり」を取り除いてあげるなどできないことを知らなければなりません。その人を新しく造り変えることができるのは、ただ神だけです。彼を世に造られた神だけが、彼を新しく生まれ変わらせることができます。「犬」と「豚」を「人間」に造り変える、再創造することができるのは、私たち人間ではなく、天地を造られた神だけです。「犬」なのですから、「豚」なのですから、私たちにはもうそれ以上何もできない、どうすることもできません。「豚に真珠」を与えない、イエスさまの言われる通り、それ以上のことはできないのです。そして、「聖なるものを犬に

与えない」、「豚の前に真珠を投げない」、これが私たちのなし得る最善のことです。

聖なるものを犬に与えてはいけません。また豚の前に、真珠を投げてはなりません。それを足で踏みにじり、向き直つてあなたがたを引き裂くでしょうから。

このイエスさまの教えに従い、よく相手の状況を見て、適切に「神の国」の福音を伝える者となりましょう。